

時をきざむ漆

A2201320 中根 優美

研究の背景

「漆」といえば現代でも一般的に古風なイメージが強い。そのせいか特に若い世代には中々手に取りにくいものである。生活様式も今と昔で大きく変化しており、和式から洋式になっている家も多く存在する。そんななか、古いイメージのものは部屋においてもそこだけ目立ってしまい空間が崩れてしまう。

『時計』は今でこそあまりその存在を語る機会は少ないが、その実各家庭に必ず置いてあるものであり、人々のくらしと密接な関係を保っている。今一度時計に着目しさまざまなシチュエーションを想定した上で、【新たなデザイン】による漆の時計の可能性を探る事は、日常にある「漆」の形として新たに日本の伝統文化を現代に伝える機会となるのではないだろうかと考えられる。

研究の目的

若い世代や外国の人々にも「漆」が感じられる「時計」を提案する事で、多くの人が持つ『漆＝お椀や重箱』といった概念に、新たな一面を提示する。

数種類、デザインの違う時計を考えることも検討していたが、各室内に合わせてパーツの取替えができるようにすることによって組み合わせる楽しさもあり、今までのイメージを変えることができる。

研究のプロセス

【パーツ】

1. アイディアスケッチ

・ネット、室内についての雑誌、書籍等で調べていくうちに自ら室内に合わせてコーディネートしていけたらよいのではないかと考え、着せ替えできるデザインに決定した。

2. 木材の切り出し

3. 組み立て

・着せ替えということで、どんな方法でパーツを入れ替えるかが課題であった。磁石を用いてパーツの取り外しを行うという考えもあったが、磁石と時計に関係について調べた結果、磁力によって時計が狂ってしまうことが判明したため、枠に沿って並べる。

4. 錆付け

5. 塗り

6. 加飾

【枠】

1. 切り出し

2. 組み立て

3. 固め

4. 摺り錆び

5. 摺り漆

成果物

【パーツ】

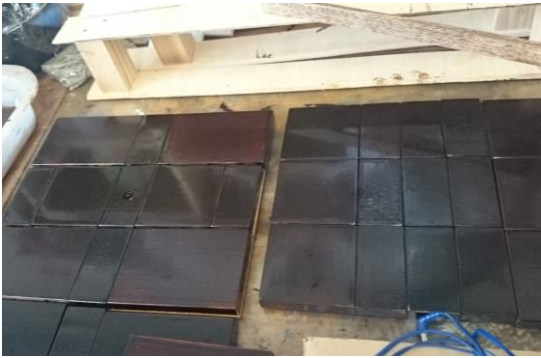


木地

【枠】



組み立て



下塗り



固め



加飾



全体像

考察・感想

今回時計の制作・デザインをしたことによって、新たな漆の分野および認知向上につながるものができたのではないかと思います。時計ということで、デザイン等で難しいところが多く存在し苦労した。時計のデザインも調査してみると多くあり、今まで知らなかった時計の仕組みを理解することができたそして、時計についても詳しく学ぶことができた。

着せ替えということをテーマにしていたため、どうしたら簡単に着せ替えることができるのか、デザイン的にはどうなのか等悩むところが多かった。

制作物として実際に飾って見たときの雰囲気や、イメージに合っているかなどさまざまな人に見てもらい調査できればよかったと感じた。色漆を用いて作業をしたが、鮮やかな漆を用いたことで新たな可能性を感じた。